



繋がる…つながる…ツナガル…

緊急事態宣言があけた2日後の22日、しろ組さんはプラネタリウム見学に行ってきました。しろ組さんの保育室の中には星座の写真が貼ってあったり、お家の人と事前に星座の勉強をしてきた子どももいて、見学を楽しみにしている様子がよくわかりました。当日は、暗い館内にたくさんの星が浮かび上がると大歓声になりましたが、お話が始まると、急にし〜んと静かになり、夏の大三角の星の見つけ方や、天の川のお話に聞き入っていました。

あつという間の楽しい時間だったようで、帰ってきてからも、ますます関心は高まっていて、子どもたちは図鑑をよく見ていました。子どもの世界は素敵です。見たこと、感じたことが感動となり、そこから“もっと知りたい”と思うことを追及するために、星座の図鑑に加えて、科学の図鑑や地球儀にも興味が広がっているようです。図鑑の中には、子どもたちが知りたいことや、やってみたいことがたくさんあるようで、何度もみんなで見るので、ボロボロ…。「やりなさい」と言われてやることよりも、自分の興味のあること、好きなこと、楽しいことが学びを深めていくのだと思います。

さまざまな意見がありますが、東京オリンピック・パラリンピックが開催されるようです。世界中から集まる人たちの聞いたことのない国名、見たことのない競技が、子どもたちに興味や感動を与えてくれることでしょう。そこからまた、何だろう?と思ったことを調べて知識を蓄えていくのだと思います。子どもたちの探究心を大事にしたいと思っています。これからまた、地球儀や図鑑が活躍しそうですね。

ある朝、激しく泣いて登園したあか組さんに、きい組さんが、頭をよしよしとなでに行ってくれましたが泣き止まず…。しろ組さんたちは、次の手段だ!とでもいうように、アイコンタクトをとりながら、誰が声をかけたらうまく泣き止んでくれるのかを探り合い、次々と入れ代わり立ち代わり声をかけたり、抱っこしようとしたり…。そうこうしているうちに、子どもたちみんなの思いが届いたのか、大粒の涙もおさまっていました。困っているお友だちがいると、なんとなくそちらを放っておかず、自然に力を合わせている子どもたちの様子にほっこりします。

社会の中で、同学年だけのコミュニティは学校しかなくて、社会にでると、さまざまな世代の人の中で関わり合っていかなくてもなりません。子どもたちが、異年齢の中で生活することで、憧れの年上のお友だちの様子をじっくりと見て真似をしたり、小さいお友だちを思いやったり、喧嘩したり…という経験を重ね、お互いの存在を認め合う大切さを学んでいると思います。月曜日の朝、たくさんの午睡用布団を運んでいる職員を見ると、しろ組さんが集まってきて一緒に運んでくれる姿もあります。みみょうの保育理念『感謝と思いやり』の心が育っていて、とても嬉しくなります。

さて、夏のあそびが始まります。体調と、暑さ、コロナ感染対策等に注意しながら、安全に楽しく進めていきたいと思っています。ご家庭との連携が大切ですので、準備や検温等ご協力ください。

しろ組さんはおとまり保育があります。詳しくは別紙でお伝えします。

園長



大人に対する安心感が出発点…

段ボールの側面に開いた小さな穴に気付いて覗き込んでいると、箱の向こうに大好きな先生が見えました。「ばあ〜」と笑顔で顔を見合せています。



ばあ♡



なにか見えるよ。

せんせいだ!!

子どもたちが主体的にさまざまなものや人に関わっていく原点は、乳児期にあります。自分は愛されているという安心感が土台となり、意欲は生まれます。常に、何だろう?と、子どもたちの心が動く環境を大事にしたいと思っています。



べたべたよ。おもしろいね。



最近の子どもたちのブームは色水作り。しろぐみさんがえんどう豆の皮や屋上の草花をすり鉢を使ってすりつぶし色水を作るあそびから始まり、それを見ていたあかぐみさんやきいぐみさんにもあそびが広がっています。

『これをすりつぶしたらどんな色が出るかね?』『先生!皮が透明になった!』など、色や形、においの変化など様々な発見をしながら楽しんでいます。さらに子どもたちの発見や驚きをキャッチしながら、あそびを繋げ、深めていきたいと思っています。

乳児園・幼児園主任